

ワクチン情報ステートメント

水痘(チキンポックス)ワクチン: 知っておくべきこと

Many vaccine information statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報ステートメントは、日本語やその他の言語でご覧になれます。
www.immunize.org/vis をご参照ください。

1. なぜ予防接種を受けるのですか?

水痘ワクチンは水痘を予防することができます。

水痘は“水疱瘡、チキンポックス”とも呼ばれ、通常、かゆみを伴う発疹を継続して約一週間引き起こします。発熱、疲労感、食欲不振や頭痛を引き起こすこともあります。皮膚感染症、肺炎、血管の炎症、脳および/または脊髄被覆の腫れ、血流、骨、または関節の感染症につながる可能性があります。水痘にかかった人の中には、数年後に「帯状疱疹」(HZとしても知られています)と呼ばれる痛みを伴う発疹を起こす人もいます。

水痘は通常軽度ですが、生後 12 か月未満の乳児、青年、成人、妊娠中の人、および免疫力が低下している人では深刻になる可能性があります。人によっては大変重症になり入院する人もいます。めったに起こりませんが、水痘が原因で死亡する人もいます。

水痘ワクチンを 2 回接種した場合、ほとんどの人にとってその効き目は一生有されます。

2. 水痘ワクチン

子供 は通常水痘ワクチンの接種が 2 回必要です。

- 1 回目の接種: 生後 12 か月から 15 か月まで
- 2 回目の接種: 4 歳から 6 歳まで

年長の子供、青年、および成人 も、水痘に免疫がない場合は水痘ワクチンを 2 回接種する必要があります。

水痘ワクチンは他のワクチンと同時に接種できることもあります。また、12 か月から 12 歳までの子供は、MMRV と呼ばれる MMR(はしか、おたふく風邪、風疹)ワクチンと一緒に水痘ワクチンを 1 回の接種で受けられる可能性があります。あなたの医療提供者はより多くの情報を提供することができます。

3. かかりつけの医療提供者と相談する。

ワクチンを接種している人の以下の様子の有無を予防接種提供者に伝えてください。

- 水痘ワクチンの前回接種後に**アレルギー反応を起こしたことがある**、または**重度で生命を脅かすアレルギーがある**
- **妊娠している**または**妊娠している可能性がある**と考えられる—妊娠中の人には水痘ワクチンを接種すべきではありません
- **免疫力が低下している**、または**遺伝性または先天性免疫系の問題の病歴を持つ親、兄弟、または姉妹がいる**
- **サリチル酸塩(アスピリンなど)を服用している**
- **最近輸血を受けたか、他の血液製剤を投与された**
- **結核をもっている。**
- **ほかのワクチンを過去 4 週間以内に接種した**

場合によっては、医療提供者が水痘ワクチン接種を先の来院まで延期すると決定するかもしれません。

風邪などの軽い病気にかかっている人はワクチンを受けられるかもしれません。中等度または重度の病気の場合は、通常、水痘ワクチンを接種する前に回復するまで待つ必要があります。

かかりつけの医療提供者から詳細情報を入手することができます。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

4. ワクチンの副作用のリスク

- ・注射箇所の腕の痛み、赤みまたは発疹、あるいは発熱が水痘ワクチン接種後に起こる可能性があります。
- ・より深刻な反応はめったに起こりません。これらには、発熱を伴うことので多い肺炎、脳および/または脊髄被覆の感染、脳痙攣の発作が含まれる可能性があります。
- ・このワクチンは、深刻な免疫系の問題を抱えている人々に生命を脅かす可能性のある感染症を引き起こすことがあります。深刻な免疫系の問題を抱えている人々は水痘のワクチンを受けるべきではありません。

ワクチンを受けた人は発疹を発症することがあります。これが起こると、水痘ワクチンウイルスが保護されていない人に広がる可能性があります。発疹を発症した人は、発疹が消えるまで、乳幼児や免疫力が低下している人に近づかないでください。詳細については医療提供者にご相談ください。

水痘の予防注射を受けた人の中には将来帯状疱疹(HZ)にかかる人もいます。これは実際に水痘に罹った人に比べ発症の可能性は、はるかに少ないです。

予防接種も含め、医療処置後に気を失う人が時々あります。もしめまいがしたり視覚の変化、耳鳴りがあるときは医療提供者に相談してください。

他の薬と同様に、ワクチンが重度のアレルギー反応、その他の重傷、または死亡を引き起こす可能性は非常に低いです。

5. 深刻な問題があったらどうすればよいですか？

クリニックを出たあとにアレルギー反応が起こることもあります。重度のアレルギー反応(じんましん、顔と喉の腫れ、呼吸困難、速い心拍、めまい、または脱力感)の兆候が見られる場合は、**9-1-1**に電話して、その人を最寄りの病院に連れて行ってください。

その他の症状で心配なことがあれば医療提供者に相談ください。

副作用は、ワクチン有害事象報告システム(VAERS)に報告する必要があります。通常はあなたの医療提供者がこの報告をしますがご自分で行うこともできます。VAERSのウェブサイト www.vaers.hhs.gov にアクセスするか、**1-800-822-7967** までお電話ください。VAERSは反応を報告するためのものであり、VAERSのスタッフは医学的アドバイスを提供しません。

6. 全国ワクチン傷害補償プログラム

全国ワクチン傷害補償プログラム(VICP)は、特定のワクチンによって負傷した可能性のある人々を補償するために作成された連邦プログラムです。予防接種による傷害または死亡の申し立てに関する請求には、提出期限があり、最短2年になる場合があります。VICPのWebサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation にアクセスするか、**1-800-338-2382** に電話して、プログラムと請求の提出についてご参照ください。

7. 詳細を学ぶにはどうすればよいですか？

- ・あなたの医療提供者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保険部門にお電話ください。
- ・ワクチンパッケージの挿入物と追加情報については、食品医薬品局(FDA)のウェブサイトをご覧ください www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines。
- ・疾病対策予防センター(CDC)にご連絡してください。
 - お電話を以下におかけになるか **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
 - CDCのWebサイト (www.cdc.gov/vaccines) をご覧ください。

Japanese translation provided by California Department of Public Health, Immunization Program

